

一 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

近代社会が生まれる前までは、ほとんどの人々は「われわれ」という集合名詞をもって暮らしていた。村の共同体とともに暮らす「われわれ」であり、都市でも同じ職種に属する「われわれ」であり、長屋の「われわれ」であり、富士山信仰をもつ「われわれ」であつたりした。もちろんこの時代にも「私」として生きる人たちは少数登場してくる。長谷川伸がaギ曲のなかで描いた「沓掛時次郎」や「一本刀土俵入り」の主人公たちはそんな人たちである。社会はそんな人間たちの生き方を「ヤクザな生き方」と呼んだ。一般に「草双紙」と総称される江戸時代の大衆小説の作家たちもそういう人間が多かつた。彼らは筆一本で勝手気儘に生きる「われわれ」をもたない人たちだつた。「ヤクザ」の反対語は「カタギ」である。「カタギ」は世代を超えて持続する仕事をもつ人たちでもあり、「われわれ」として生きる人たちでもあつた。商人、職人であれ、農民や武士であれ、家業と共同体をもつ人たちだといつてもよい。この視点からみるなら、1近現代とは人間たちを「カタギ」から「ヤクザ」へと転換させた時代だつたといつてもよい。私たちは「われわれ」を失つて「私」になつていつた。ここに近代的な「自由な個人」が登場してくる。この変化を私たちは近代における「人間の解放」と呼んだ。ここに本書が課題にしたものは、この転換が私たちを歩き詰らせている現実である。

A トーマス・マンの代表作のひとつに「ベニスに死す」がある。後にルキノ・ヴィスコンティによって映画化された作品を観た人も多いだろう。有名な作家であるアッシエンバッハ(トーマス・マンの投影でもあるのだが)日常の倦怠を感じながら保養地ヴェネツィアにbタイ在し、そこで発見した美少年にのめり込んでいく話である。ヴェネツィアでコレラが広がり、美少年家族も去つていく。主人公はコレラにc感センし死ぬ。一九一二年の作品である。

主人公のアッシエンバッハもまた、いま述べた分け方をするなら、「ヤクザ」な人間だつた。「われわれ」として生きていくのではなく、「私」として生きた。作家として成功したが、名声とともに手に入れたのは自分の生をもてあますような倦怠でしかなかつた。この倦怠から抜け出させてくれたものは美少年への思いであり、その結果は死出の旅だつた。ここには近代人のひとつの死がある。

私たちは2こんな世界へ向かつて歩みだしたのである。しかしその生はアッシエンバッハとは違つていた。アッシエンバッハは「私」として「私」だけの世界を生きつづけたが、多くの近代人、現代人たちは、その「私」を「人々」という群れの中に埋没させることによつて、現代的なシステムの歯車になつていつたのである。歯車が回つていく熱狂の時代を生みだしながら。

それは経済システムや社会システム、国家システムといった巨大システムに個人が管理される時代をつくりだした。その奥には、アッシエンバッハと同じような人生に対する倦怠がありながら、それを表面化させないよう

に、巨大システムにのみ込まれた個人としての「幸せ」を追い求めたのである。3「人々」として生きようとしても、経済システムは「人々」からはじきだされる人たちを生みだしてくる。非正規雇用の増大やワーキングプアの発生がそのことを物語つている。国家システムも「人々」のすべてを支えようとはしなくなつた。これから待つているのは、増税やd社会保シヨウ水準の切り下げである。個人を基準にした社会システムは孤立した個人をつくりつづける。それがなぜeケン在化してきたかは本書の本論に譲ることにしよう。私はそのことのなかに、先進国の終わりを、さらには近現代の終わりをみている。とともにいま問わなければならないのは「われわれ」から「私」に存在の基盤を転換させていつた近現代という時代が根底に持つていつた問題点である。

内山節『新・幸福論』による

問1 傍線部a～eの言葉のカタカナの部分の漢字を含む言葉を次の①～④の中からそれぞれ選んで記号で答えよ。解答番号はaが① bが② cが③ dが④ eが⑤

- | | | | | |
|---|---------|----------|---------|---------|
| a | ①虚ギの発言 | ②ギ似感染症 | ③便ギをはかる | ④園児の遊ギ |
| b | ①タイ借対照表 | ②熱タイ雨林気候 | ③納税の延タイ | ④犯人タイ捕 |
| c | ①甲状ゼン | ②ゼン色体 | ③河ゼン敷 | ④ゼン風機 |
| d | ①シヨウ抛隠滅 | ②損害賠シヨウ | ③職業シヨウ介 | ④関税シヨウ壁 |
| e | ①ケン微鏡 | ②ケン上品 | ③首都ケン | ④ケン忘症 |

問2 傍線部1に「近現代とは人間たちを「カタギ」から「ヤクザ」へと転換させた時代だったといってもよい」とあるが、その理由として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は

- ① 近代的な「自由な個人」はそれぞれ「私」として自由に生きているが、「自由」と「勝手」をはきちがえて、なんとしても自分の「自由」な言動を押し通すことによって社会から疎外されるから。
② 近現代を通じて封建的な家族制度や徒弟制度が民主化され、自由な個人が増えたことによって家業を継ぐ人が減り、田舎から都会に出る人が増えたが、都会では生業に就くことがむずかしいから。
③ 封建的な制度や習慣から人間を解放し、自由な個人を尊重する近現代の考え方から、村落や町内や大家族や職能集団など身近な人々との関係を希薄にしまったことによって孤立した人間が増えたから。
④ 個人を基盤にした現代の社会システムは共同体や職能集団から孤立した人を生み出してしまったが、その人々は群れの中では生きられず社会と相容れないため、生業を持たない人々になったから。

問3 傍線部2の「こんな世界」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号は7

- ① 大人の男が美少年を愛することに象徴されるような、多くの現代人が内面に抱く異常な世界。
② 現代人は物には満ち足りているため今後の生きる目的を見出せず、倦怠のみがある精神世界。
③ 物質的な満足感はあるが個々の人は孤立しており、孤独から逃れるため死を望む絶望の世界。
④ 現代人である私たちが孤立した個を大切にすることが故に一人ひとりが孤立した存在となる世界。

問4 傍線部3の「人々としていきようとして」とあるが、「人々として生きる」ことの説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は8

- ① 個の主張を押さえて周囲の人々と協調や妥協をすることによって、経済や社会のシステムの一構成員となつて労働の対価を得て生計を立てること。
② 芸術でも商売でも何かの起業でも、個人の才能を十分に生かし、組織にあまり頼ることなく成功して経済的に安定した生活すること。
③ ひとりよがりなことはできないが、親類や職能集団や近所の人などとのつながりを大切にしてお互いに助け合いながら生きること。
④ 個々の「私」が、他者の内面や個性を尊重しながらも他者とは違う自分の内面や個性をかけがえのない大切なものとして生きること。

問5 この文章を書いた筆者の意図として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は9

- ① 日本でも近代になって欧米の思想を取り入れ、自由な個人の尊重を良しとしてきたが、日本人は組織の一員として出過ぎたことほしくないように「個」を押さえてきたので、今後は真に人間が解放された自由な社会にしたい。
② 日本でも近代になって欧米の思想を取り入れ、自由な個人の尊重を善としてきたが、日本では自由をはき違えて利己主義者を生み出したので、一人ひとりが個を押さえて集団の一員として全体に貢献する社会にしたい。
③ 日本でも近代になって欧米の思想を取り入れ、自由な個人の尊重を是としてきたが、結果的に人間を孤立した存在にしているので、仕事仲間や村落や町内の人々とのつながりを再構築して心の通い合う社会にしたい。
④ 日本でも近代になって欧米の思想を取り入れ、自由な個人の尊重を大切にしてきたので、封建的な社会に縛られた人を解放し、偏見や差別は次第になくなりつつあるが、今後は雇用面での差別がないような社会にしたい。

問6 二重傍線部Aのトーマス・マンはノーベル賞を受賞した作家であるが、次のノーベル賞作家の作品を後の語群から選んで記号で答えよ。解答番号は

- | | | | | | |
|-----------|-------|----|-----------|-------|----|
| ① 川端康成 | 解答番号は | 10 | ② ヘミングウェイ | 解答番号は | 11 |
| ③ スタインベック | 解答番号は | 12 | ④ ヘッセ | 解答番号は | 13 |
| ⑤ メーテルリンク | 解答番号は | 14 | | | |

□ 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

こんな夢を見た。

腕組みをして枕元に坐つてみると、仰向けに寝た女が、静かな声でもう死にますと云う。女は長い髪を枕に敷いて、輪郭の柔らかな瓜実顔をその中に横たえている。真白な頬の底に温かい血の艶が程よく差して、唇の色は無論赤い。到底死にそうには見えない。然し女は静かな声で、もう死にますと判然云つた。自分も確かにこれは死ぬなおもつた。そこで、そうかね、もう死ぬのかね、と上から覗き込む様にして聞いてみた。死にますとも、と云いながら、女はぱつちりと眼を開けた。大きな潤いのある眼で、長い睫に包まれた中は、只一面に真黒であつた。その真黒な眸の奥に、自分の姿が鮮やかに浮かんでいる。

自分は透き徹る程深く見えるこの黒眼の色沢を眺めて、これでも死ぬのかと思つた。それで、1ねんごろに枕の傍へ口を付けて、死ぬんじやなかるうね、大丈夫だろうね、と又聞き返した。すると女は黒い眼を眠そうにみはつたまま、やつぱり静かな声で、でも、死ぬんですもの、仕方がないわと云つた。

じゃ、私の顔が見えるかいとに聞くと、見えるかいって、そら、そこに、写つてるじゃありませんかと、にこりと笑つて見せた。自分は黙つて、顔を枕から離れた。腕組をしながらどうしても死ぬのかなと思つた。

しばらくして、女が又こつた。「死んだら、埋めて下さい。大きな真珠貝で穴を掘つて。そうして天から落ちてくる星の破片を墓標に置いて下さい。そうして墓の傍に待っていて下さい。又逢いに来ますから」

自分は、何時逢いにくるかねと聞いた。

「日が出るでしょう。それから日が沈むでしょう。それから又出るでしょう、そうして又沈むでしょう——赤い日が東から西へ、東から西へと落ちていくうちに——あなた、待つていられますか」

自分は黙つて首肯した。女は静かな調子を一段張り上げて、

「百年待つていて下さい」と思い切つた声で云つた。

「百年、私の墓の傍に坐つて待つていて下さい。きつと逢いに来ますから」
自分は只待つていと答えた。すると、黒い眸のなかに鮮やかに見えた自分の姿が、ぼうつとaクズれて来た。静かな水が動いて写る影を乱した様に、流れ出したと思つたら、女の眼がぱちりと閉じた。長い睫の間から涙が頬へ垂れた——もう死んでいた。

自分はそれから庭へ下りて、真珠貝で穴を掘つた。真珠貝は大きな滑らかな縁の鋭い貝であつた。土をすくう度に、貝の裏に月の光が差してきらきらした。湿つた土の匂いもした。穴はしばらくして掘れた。女をその中に入れた。そうして柔らかい土を上からそつと掛けた。掛ける度に真珠貝の裏に月の光が差した。

それから星の破片の落ちたのを拾つて来て、かろく土の上へ乗せた。星の破片は丸かつた。長い間大空を落ちていた間に、角が取れて滑らかになつたんだらうと思つた。抱き上げて土の上へ置くうちに、自分の胸と手が少し暖くなった。

自分は昔の上に乗つた。これから百年の間こうして待つているんだなと考えながら、腕組をして、丸い墓石を眺めていた。そのうちに、女の云つた通り日が東から出た。大きな赤い日であつた。それが又女の云つた通り、やがて西へ落ちた。赤い日までのつと落ちて行つた。一つと自分は勘定した。

しばらくすると又唐紅の天道が（ア）上つて来た。そうして黙つて沈んでしまつた。二つと又勘定した。自分はこう云う風に一つ二つと勘定していくうちに、赤い日をいくつ見たか分からない。勘定しても、勘定しても、しつくせない程赤い日が頭の上を通り越して行つた。それでも百年はまだ来ない。しまいに、昔の生えた丸い石を眺めて、自分は女に欺されたのではなかるうかと思ひ出した。

すると石の下から斜に自分の方へ向いて青い茎が伸びて来た。見る間に長くなって丁度自分の胸のあたりまで来て留まつた。と思うと、（イ）揺ぐ茎のバイタキに心持首を傾けていた細長い一輪の蕾が、（ウ）瓣を開いた。真白な百合が鼻の先で骨に徹る程匂つた。そこへ遙の上から、ぼたぼたと露が落ちたので、花は自分の重みでふらふらと動いた。自分は首を前へ出して冷たい露のシタタる白い花瓣に接吻した。自分

が百合から顔を離す拍子に思わず、遠い空を見たら、暁の星がたった一つ瞬いていた。②「百年はもう来ていたんだな」とこのとき始めて気が付いた。

夏目漱石「夢十夜」による

問1 二重傍線部 a、c のカタカナと同じ漢字を含む熟語を、次の言葉のカタカナで記した熟語の中から選んで記号で答えよ。解答番号は a が 15、b が 16、c が 17

- ① 昭和天皇がホウギョした。 ② コウモクごとに分ける ③ 優勝者に天皇シハイを渡す
- ④ 春に植物がホウガする ⑤ その行動は愚のゴツチヨウ ⑥ 患部をテキシユツして治す
- ⑦ 堤防のケツカイによる洪水 ⑧ テンテキで薬剤を投与する ⑨ 家にテキレイ期の娘がいる

問2 傍線部1「ねんごろに」の意味として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は 18

- ① 意外さを信じられず ② 親切で丁寧な ③ 憂慮して氣遣い ④ 言動を不審に思い

問3 () ア、ウの中に入る言葉として最も適当なものを次の①～⑥の中から一つ選んで記号で答えよ。

- 解答番号はアが 19、イが 20、ウが 21
- ① ふつくらと ② まんじりと ③ のそりと ④ ちゃっかりと ⑤ ちらりと ⑥ すらりと

問4 この文章の「女」の描かれかたの説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は 22

- ① 眉目秀麗かつ清楚で温厚な女性として ② 不条理な死を容認する気丈な女性として
- ③ 男尊女卑を是とする古風な女性として ④ 執念深い魂を持つ怪異な女性として

問5 傍線部②「百年はもう来ていたんだな」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は 23

- ① 「女との約束の百年を指折り数えて待つていたところ、女が約束を守って会いに来たことを百合の花に接吻して始めて分かり、女は知らないうちに暁の星となって輝いていた。
- ② 百合が女の化身だと気づいてから、暁の星が女の霊だとはっと気づくことによって、女が約束を守ったことが分かったので、その約束から考えると百年はもう経過していた。
- ③ 女の死後、女の言葉通りにして葬ってやったので、女の約束を信じて疑わなかったが、女が百合の花になって会いに来たので実際百年経過しなくても、百年たったことになる。
- ④ 暁の星が女の霊だとはっと気づくことで、百合の花が女の化身であり、女が約束を守ったこともわかったため、それではもう百年が経過してしまっていたのだと理解した。

問6 この文章の表現の特色として適切でないものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は 24

- ① 現実にはあり得ないことが、夢であるから現実味を帯びて感じられるように表現されている。
- ② 人が死ぬ話であるが、死を悼まず、逆に軽妙に描かれ、深刻にならないように表現されている。
- ③ 外来語や漢語を極力使用せず、難解な語句も使用せず、平易な日本語で美しく表現されている。
- ④ 人の死を扱いながら、冷静に葬送の儀式が描かれ、作者の死生観・来世観が明確に表現されている。

問7 作者の夏目漱石は大正五年に死去したが、漱石の死去以前に活躍の最盛期を迎えた作家を次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。解答番号は 25

- ① 宮沢賢治 ② 太宰治 ③ 樋口一葉 ④ 三島由紀夫

三

次のA～Eのことわざの意味として最も適当なものを後の①～⑨の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えよ。 解答番号はAが26、Bが27、Cが28、Dが29、Eが30

A 独活の大木。

B 枯れ木も山の賑わい。

C 木に竹を接ぐ。

D 泣き面に蜂。

E 元の木阿弥。

- ① つまらない物でもないよりはましだと言うこと。
- ② 偉大な才能は遅く開花すること。
- ③ 不可能なこと。
- ④ 再び以前のつまらない状態に戻ることに。
- ⑤ 物事のつながりが不自然なこと。
- ⑥ 不幸の上にさらに不幸が重なること。
- ⑦ 桜の花は大勢で見ることが盛り上がることに。
- ⑧ 本来のあるべき姿に戻ることに。
- ⑨ 大きいばかりで役に立たないことに。

四

次のA～Eの対義語として最も適当なものを後の①～⑨の中からそれぞれ一つ選んで記号で答えよ。 解答番号はAが31、Bが32、Cが33、Dが34、Eが35

A 栄転

B 緊張

C 寡黙

D 親密

E 中枢

- ① 離反
- ② 穏和
- ③ 疎遠
- ④ 左遷
- ⑤ 没落
- ⑥ 饒舌
- ⑦ 弛緩
- ⑧ 末梢
- ⑨ 外輪

五

次の文章のA～オに入る言葉として適切なものを後の語群から選んで記号で答えよ。 解答番号はAが36、イが37、ウが38、エが39、オが40

十九世紀後半、フランスを中心におこった（ア）主義は、人間や社会の現実を客観的に表現しようとする運動であったが、わが国では明治三十年代半ばからこの運動が紹介され、明治四十年代は、全盛の時代であった。たとえば、明治三十九年、島崎藤村は『（イ）』を著して因習的な社会問題を素材にした。翌明治四十年には田山花袋が自伝的告白をした『蒲団』を著した。その後、この運動は、社会問題の追及よりも私生活の告白へと向かうようになった。

一方、この運動が私生活を暴露する方向に進んだことに対して批判する立場もあった。こうした批判的立場の文学を総称して反自然主義という。この立場は、森鷗外や夏目漱石らの（ウ）派、永井荷風や谷崎潤一郎らの（エ）派、武者小路実篤や志賀直哉らの（オ）派などに分けられる。

- ① 写実
- ② 白樺
- ③ 自然
- ④ 反自然
- ⑤ 高踏
- ⑥ 耽美
- ⑦ 浪漫
- ⑧ 明暗
- ⑨ 破戒

六

次のa～jの□の中に入る適切な漢字を下からそれぞれ記号で選んで四字熟語として完成させよ。 解答番号はaが41、bが42、cが43、dが44、eが45、fが46、gが47、hが48、iが49、jが50

a	文人墨□（風流人のこと）	【①客	②汗	③黒	④筆】
b	博覧強□（広く書を読み何事もよく知っていること）	【①識	②力	③情	④記】
c	我田□水（自分の都合のいいような言動をすること）	【①給	②山	③引	④如】
d	悪□苦闘（困難に打ち勝とうとがんばること）	【①洗	②専	③線	④戦】
e	□若無人（他人を無視して自分勝手に振る舞うこと）	【①老	②傍	③年	④少】
f	清□潔白（心が清く、うしろ暗いことがないこと）	【①浄	②明	③廉	④風】
g	言語□断（もつてのほかで、言葉にもできないこと）	【①道	②判	③勇	④禁】
h	和洋□衷（日本風と西洋風を程よく混ぜること）	【①折	②半	③合	④中】
i	五里□中（見通しや方針が全く立たないこと）	【①道	②夢	③懐	④霧】
j	山口水明（自然の風景が清らかで美しいこと）	【①緑	②青	③碧	④紫】